実施日程	実施校名	地元主催者
2021年6月30日(水)	神津島村立神津中学校	東京都教育委員会
2021年7月1日(木)		
2021年7月14日(水)	足立区立花保小学校	東京都教育委員会
2021年7月15日(木)		
2022年1月17日(月)	いすみ市立浪花小学校	千葉県教育委員会
2022年1月18日(火)		
2022年1月20日(木)	市原市立市東第一小学校	千葉県教育委員会
2022年1月21日(金)		

知ってますか?～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

こども映画教室とは…

2004年に始まった「こども映画教室」がめざすのは「こどもと映画のアカルイミライ」。多様な活動を通して、映画という自由で身近な芸術をより多くのこどもに届けます。
こども映画教室が大事にしていることは2つ。
1. 大人は手出し口出ししないこと。 **2.** 一流の映画人と出会うこと。
大人がこどもを信じ自主性を尊重することでこどもには自尊感情が生まれ、真剣な大人との出会いはこどもを勇気づけ自己肯定感をもたらします。
「映画教育は人間教育」という言葉を胸に、生きづらさを抱えた子や、居場所をもちにくい子にも映画を届けたいと活動しています。これまでに、是枝裕和、諏訪敦彦といった一流の映画監督たちがこの活動に共感し特別講師を引き受けています。

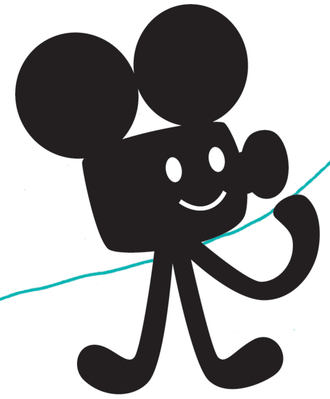
一般社団法人 こども映画教室
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F
phone & fax : 050-3188-1549
http://www.kodomoeiga.com
info.kodomoeiga@gmail.com
https://www.facebook.com/kodomoeiga/

文化庁

令和3年度
文化芸術による子供育成総合事業 ―巡回公演事業―

一般社団法人

こども映画教室



映画鑑賞＋ワークショップ公演

「生きてないものが動く！」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！

「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

映画鑑賞＋ワークショップ

「生きてないものが動く！」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！

プログラム紹介

※プログラムは施設ごとの状況により変更となる場合がございます。

※本公演ではiPadを使用して撮影します

①映画を“観る”

切り絵を用いたアニメーションで知られるロシアのアニメーション作家、ユーリ・ノルシュテイン。
ノルシュテインは、“アート・アニメーションの神様”として宮崎駿監督や高畑勲監督、
世界中のアニメーション作家から尊敬される存在でもあります。
今回上映する『霧の中のハリネズミ』は、ノルシュテインの代表作のひとつであり、
今もなお世界中で愛されている名作アニメーションです。

『霧の中のハリネズミ』(1975年／ソ連／10分)
監督・アニメーション：ユーリ・ノルシュテイン

おはなし

夕暮れの野原をハリネズミのヨージックが急ぎ足で歩いている。友だちの子グマの家でお茶を飲みながら星を数えるために。いつしか周囲には夕霧が立ちのぼり、ヨージックはそこで様々な体験をする…

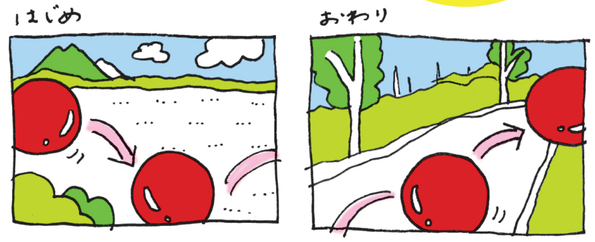
©2016 F.S.U.E. C&P SMF

②映画について“おしゃべりする”

鑑賞した『霧の中のハリネズミ』について、
どんな動物やものが出ていた？どんな音がした？
など、みんなでおしゃべりしながら振り返り、
映画について感じたことや考えたことを言葉にします。

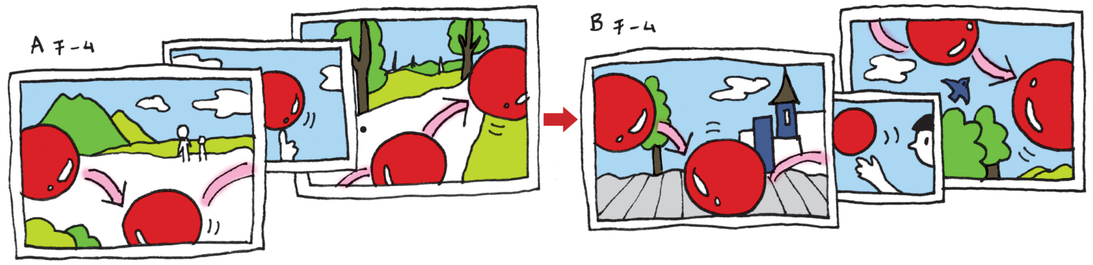
③映画を自分たちで“撮る”

チームに分かれ、赤いボールを主人公にした短い映画をiPadで撮影します。
まず映画に出てくる赤いボールの気持ちを考え、それをヒントにストーリーや撮り方を考えます。
ルールは赤いボールはかならずフレームの外から入ってきて、最後はフレームから出ていきます。
おもしろそうな場所を見つけて撮ってみましょう。



④自分たちの映画を“観る”

それぞれのチームが撮った映画を1本につなげてみると?!
なんとAチームの映画のおわりにフレームの外に飛びだしたボールが
Bチームの映画の中にポンとはいってきて、次にはCチームの映画の中に！！
まるで赤いボールがみんなの知っている場所を冒険していくように見えます！



特別講師プロフィール

諏訪 敦彦（映画監督）

映画監督、大学教授（東京藝術大学）。1997年に公開された『2/デュオ』で長編映画監督デビューの後、1999年公開の監督作品『M/OTHER』で、第52回カンヌ国際映画祭の国際批評家連盟賞を審査員全員一致で受賞。2005年には、全てフランス人キャスト・スタッフによる『不完全なふたり』（日仏合作）がロカルノ国際映画祭において審査員特別賞と国際芸術映画評論連盟賞を受賞。その後もフランスを活動拠点とし、オムニバス映画『パリ・ジュテーム』（2006年）への監督参加、フランス人俳優との共同監督による『ユキとニナ』（2009年）がカンヌ国際映画祭において高い評価を受ける。2018年、8年ぶりの監督作品『ライオンは今夜死ぬ』（2017年）が公開された。2020年公開の監督作『風の電話』で第70回ベルリン国際映画祭国際審査員特別賞、第71回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

● ワークショップスタッフ

【特別講師】
諏訪 敦彦（映画監督）／ 萩生田 宏治（映画監督）

【プロデューサー】
土肥 悦子

【ファシリテーター】
深田 隆之　奥定 正掌　今橋 貴
大川 景子　小林 和貴　太田 達成
糠塚まりや　五十嵐 耕平　中井 聖満
藤田 叶　御子柴 和郎　藤田 開
山本 大輔　中村 隆一

【テクニカルマネージャー】
酒井 貴史

【事務局】
浅見 孟